

## 学生利用をのぼす 図書館の試み

国際基督教大学図書館  
畠山珠美  
hatake@icu.ac.jp  
公立大学協会図書館協議会研修会  
2008年9月4日

1

## 国際基督教大学(ICU)の紹介

- 所在地 東京都三鷹市
- 1953年4月 開学
- 学生数 約 3,000名
- 専任教員数 150名
- 2008年4月 教学改革スタート
  - 旧制度 1学部 6学科
  - 新制度 1学部 1学科(アーツ・サイエンス学科)



2

## ICU図書館の概要

- 蔵書数 約 67万冊 (洋:和=48%:52%)
- 受入冊数 12,700冊/年
- 雑誌 約 8,000タイトル(和雑誌 約270)
  - 冊子体 約1,200
  - 電子ジャーナル 約6,800
- 開館時間 8:30~22:30(学期中の平日)
- スタッフ 専任職員 13名、派遣職員 3名、  
パートタイマー 24名(週2~3日)、  
学生アルバイト 約10名/日

3

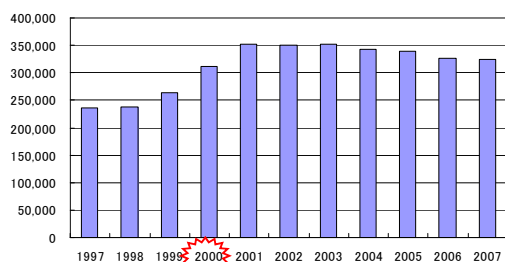
## ICU図書館の特徴

- 中央図書館制
- 専門職図書館長制
- 全面開架
- 貸出冊数無制限  
(貸出期間 学部生:2週間 大学院生:1ヶ月)
- 論文用長期貸出  
論文執筆対象者:10冊まで3ヶ月間貸出
- 図書・雑誌の配架は和洋混排

4

## 利用状況に変化！？ (1)

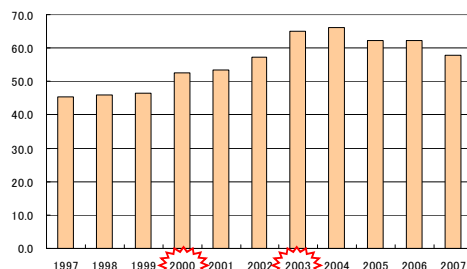
年間入館者数



5

## 利用状況に変化！？ (2)

学生一人あたりの年間貸出冊数



6

## 何が起こったのか？変わったのか？

2000年9月 新館 オープン  
「ミルドレッド・トップ・オスマー図書館」

2002年度～  
図書館レクチャーをリニューアル

7

## 新館建築計画

- 1980年代後半
  - 書架スペースの狭隘化(外部へ保管委託)
  - インターネット環境の必要性



- 1993年 新図書館構想委員会報告



- 1995年 図書館増築の提案

8

## インフォメーション・コモنز(IC)構想

- ① あらゆる情報にアクセスできる環境
  - インターネット上の情報
  - 図書・雑誌・新聞等の冊子体
- ② 様々な学習形態に合ったスペースの提供
  - 個人学習
  - グループ学習
  - レクチャー
- ③ サポート体制の充実

9

## 新館 オープン

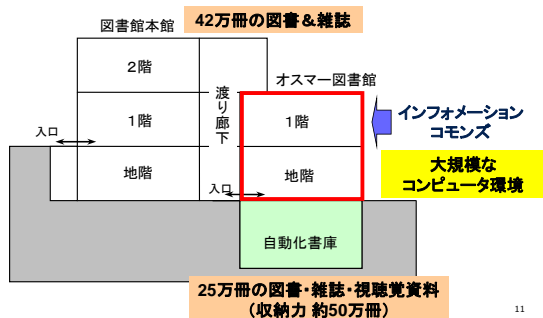
- 1998年12月 新館建築工事 着工
- 2000年1月末 竣工
- 2000年5～6月 テスト開館(1フロアのみ)
- 2000年9月 ミルドレッド・トップ・オスマー図書館 OPEN



10

## ICのコンセプト ①

～あらゆる情報にアクセスできる環境～



11

## ICのコンセプト ①

～あらゆる情報にアクセスできる環境～

- 自動化書庫の最大のメリット  
「いつでも」「誰でも」「何冊でも」
- 自動化書庫から取出す手順
  1. OPACから出庫指示(キャンパス内ならどこからでもOK)
  2. 約3分後、取出口に本(コンテナ)が到着
  3. スタッフが出庫された本を自動化書庫用棚に置く
  4. 利用者は自動化書庫用棚から適時ピックアップ



12

### ICのコンセプト ①

～あらゆる情報にアクセスできる環境～

- 新館の総面積 3,874㎡ (各フロア1,100㎡)
- AVキャレル 16席
- スタディ・エリア 個人席:122席
- 【1階フロア】 Windows 70  
Macintosh 12
- 【地階フロア】 Windows 36  
Macintosh 4



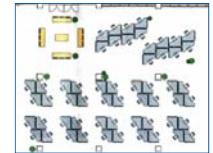
13

### ICのコンセプト ②

～様々な学習形態に合ったスペース～

#### 個人学習スペース:スタディエリア

- 広い机
- 座り心地のよい椅子
- PC教室(席が並列)の硬いイメージを払拭
- ▶ 自由なイメージのレイアウト
- 余裕のあるスペース
- 三方がガラス張り(外の景色との調和)



14

### ICのコンセプト ②

～様々な学習形態に合ったスペース～

#### レクチャースペース:マルチメディアルーム

- 席数:50席(全席にノートPC)
- 教卓用PC 2台(Windows, Macintosh)
- スクリーン(100インチ、2面)
- プロジェクタ
- ビデオ(VHS, 8mm,β)
- スライド
- DVD/CD/LD
- 実物投影機



15

### ICのコンセプト ②

～様々な学習形態に合ったスペース～

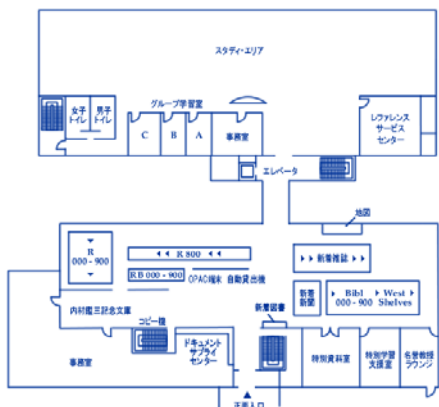
#### グループ学習スペース:グループ学習室

- 3室(用途に合わせて異なった家具を設置)
- モニタ、VHSビデオデッキ、DVDデッキ、PC、ホワイトボード

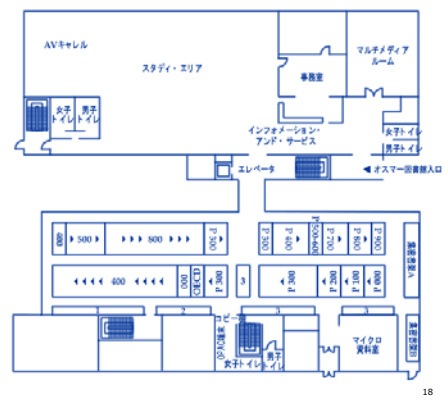


16

#### 1階平面図



#### 地階平面図



18

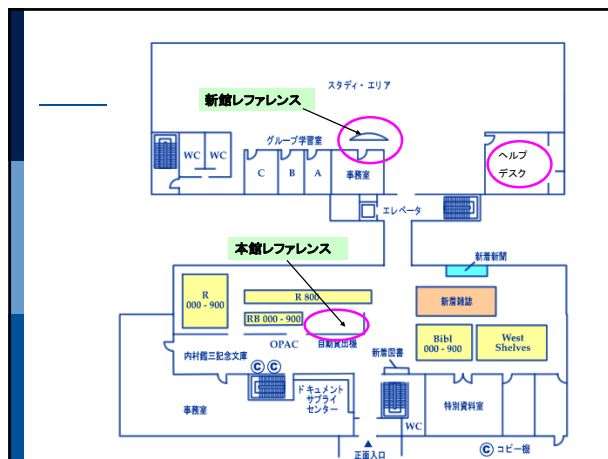
### ICのコンセプト ③

～サポート体制の充実～

#### □ 初代サポート体制

- 本館レファレンスカウンター
- 新館レファレンスカウンター  
主にオンライン・データベースの指導
- ヘルプデスク(業務委託)
  - コンピュータの利用指導
  - 大学全体のコンピュータサポートをしているヘルプデスクをITセンターから新館に移設

19

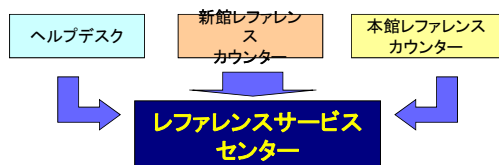


### ICのコンセプト ③

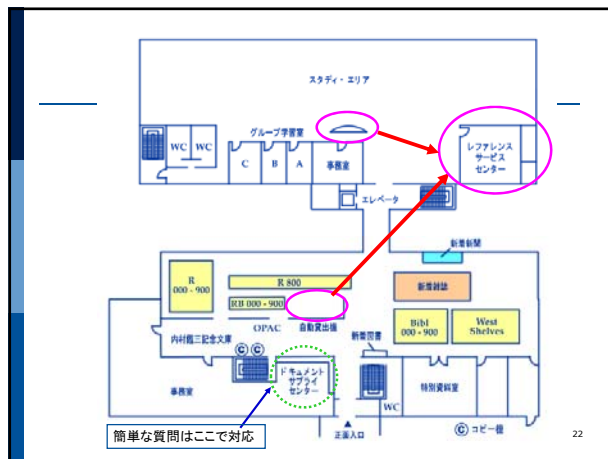
～サポート体制の充実～

#### □ サポート体制(3つの窓口)に問題発生

- 利用者をたらい回し
- 2つのレファレンスをカバーする要員不足
- 業務委託(ヘルプデスク)の限界



21



22

### レファレンスサービス・センター

- 職員 4名 常駐  
8:30~16:30 2名、10:00~18:00 2名
- PC操作指導～事項調査
- 個別指導～グループ指導



23

### 学生が図書館に求めていること

- 快適な学習空間
  - 家具・スペース
  - 学習意欲を掻き立ててくれる場所  
= 他の人も勉強している場所
- ネットで入手できない情報が手に入る
- 「聞ける」人がそばにいる

他の場所ではできないこと(物)を提供する

24

## もっと利用をのばすには...

### □ なぜ図書館に来ないのか

- ネットの情報で充分と思っている  
= 図書館資料の必要性を感じない
- 感想文と学術論文の違いがわからない  
= 参考文献の必要性を理解していない

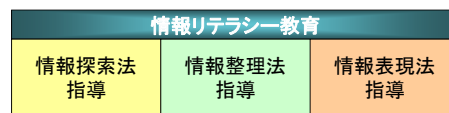


- 情報リテラシー教育が必要不可欠
  - 最初(新入生)が肝心

25

## ICUにおける情報リテラシー教育

- 英語教育プログラム(English Language Program, ELP) = 情報リテラシー教育



図書館員が担当

ELP教員が担当

26

## 「ELP」とは

- 4月入学生の必修科目
- 英語を学ぶのではなく、英語は単なるツール
- 1年次のほとんどと2年次の一部を使って、大学生に必要な「読む」「書く」「聞く」「話す」の基礎能力を身につける
- カリキュラム
  - Academic Reading and Writing Course (1年次)
  - Reading and Content Analysis Course (1年次)
  - Communicative Strategies (1年次)
  - Sophomore English (2年次)
  - Theme Writing (2年次)

27

## 図書館員によるレクチャーの概要

- ELPの授業の3コマを使用
- 指導内容
  - 1年次春学期(4月中旬~5月上旬)
    - 学術論文とは
    - 図書館資料の基礎知識(資料の種類・媒体、配架方法等)
  - 1年次秋学期(9月中旬~10月上旬)
    - 学術誌とは
    - 雑誌論文の探し方(オンラインデータベースの使い方)
  - 2年次(各学期で開講)  
主題に合った文献の探し方

28

## 1年次春学期のレクチャー

1. 授業時間 70分
2. レクチャーの主旨説明&事前テスト
3. グループワーク(1組3~4名) 20分
4. 解説とまとめ 25分
5. 事後テスト

29

## レクチャーの主旨説明

### 学術論文とは

- 自分の考えだけでは ×
- 事実に対して根拠を示すことが必要

例: 地球温暖化の進行が異常気象をもたらしている。

- 地球温暖化とは?(定義→百科事典、各種辞典)
- 温暖化はどれくらい進んでいる?(統計データ)
- どんな異常気象が発生しているのか(新聞記事、雑誌記事)
- 地球温暖化と異常気象に関係はあるのか?  
→賛成論と反対論を示し、賛成論をなぜ支持できるかを示す  
(先行研究→ 図書、研究論文)

30

## グループワークの課題(例)

- 課題1. 日本における格差の問題について述べた図書を1冊持ってきてください。
- 課題2. Scienceという単語をタイトルに含む雑誌を1冊持ってきてください。
- 課題3. New York Timesのできるだけ古いものを持ってきてください
- 課題4. 日本以外のアジアの国に関するレファレンスブックを持ってきてください。

31

## 2007年度の実施状況

- 実施場所: マルチメディアルーム
- 受講者数
  - 1年生春学期 17回 571名
  - 1年生秋学期 16回 576名
  - 2年生 春:3回 秋:5回 冬:4回 594名
- 担当者 館員全員
  - 1クラス 2名
  - 主担当: 課題作成・司会進行、副担当: 補佐・評価
  - 全員が1回は主担当者となる

32

## 効果的なレクチャーとは

- 授業・ゼミとの連携
  - 「参加」には教員からの指導(強制力)が必要
- レクチャーは「きっかけ」
  - 「狭く深く」 < 「浅くても広く」
  - レクチャー後の受け皿(レファレンス)をPR
- 興味を持ちそうな内容・形式に
  - 講義よりも演習重視
  - 1年生にはグループワークを

33

## 次のステップとして

- 情報リテラシー教育の拡大
  - 3～4年生向けレクチャーの強化
- 教育機能の強化
  - 授業のサポート
  - 論文作成指導のアシスタント
- 非来館者向けサービスの充実
  - デジタル資料の拡充
  - e-レファレンスの周知・強化

【参考】 Q&A : <http://www-lib.icu.ac.jp/QandA/index.htm>

34